

地方創生加速化交付金事業 概要

～林業の再生に向けた多摩産材活用モデル事業～

1. 背景

- ・多摩地域の森林は、東京都の森林面積の約7割を占めており、土砂災害の防止など、生活において様々な役割を果たしている。
- ・八王子市においても市の面積の約4割が森林であり、東京都の森林の約1割を有しているが、原木価格の低下や林業従事者の減少により森林整備が進んでおらず、森林の手入れが十分に行き届かない状況にある。
- ・多摩地域で育成した木材は、「多摩産材」として認証制度が確立されているが、多摩産材の価格は他の木材価格と比べて高価であるため、普及の妨げとなっている。

2. 事業内容

- ・上記課題の原因を明らかにするため、多摩地域の森林・林業の現状調査、林業関係者へのヒアリング、先行事例等の調査を行い、その解決策を導き出す。
- ・本市の魅力の一つが「自然に恵まれていること」であることから、豊かな自然を次世代に継承していくための「木育」を推進していくことは重要である。そこで、生活に身近な場所での多摩産材に触れる機会の創出や、親子世代の交流を図るための木育活動・交流拠点を中心市街地に整備する。

<事業費内訳>

	歳入	歳出
地方創生加速化交付金	59,812,178 円	
多摩産材の現状及び流通過程における課題抽出調査、 多摩産材の販路開拓に向けた方策検討		14,999,867 円
木育活動・交流拠点の整備・木育ソフト費 (まちなか活動交流拠点「kikki+」の整備及び木質家具の試作)		44,812,311 円
計	59,812,178 円	59,812,178 円

3. 実績

重要業績評価指標 (KPI)	事業終了時の 目標値 28年度	目標値 32年度 (2022年度)	実績値	
			27年度	28年度 (事業終了時)
多摩木材センター (原木市場) 売上額	195,000 千円	215,000 千円	165,908 千円	178,784 千円
緑地保全活動に参加 した人数 (※)	1,000 人	2,000 人	1,117 人	2,127 人

※ セブン-イレブン記念財団の「高尾の森自然学校」、佐川急便の「高尾 100 年の森」が実施している森林保全体験等の参加人数から集計

4. 事業実施に関連する成果又は効果

- ・民間団体による自主的な取組等により、緑地保全活動に参加した人数については、当初の目標を大きく上回っており、森林の再生・保全に対する市民の意識は着実に高まってきている。
- ・まちなか活動交流拠点「kikki+」の整備及び木育家具の試作により作成した家具が、ウッドデザイン賞 2017（木製品分野）を受賞。
- ・本事業において実施したワークショップを契機に、多摩地域の森林や多摩産材の活用方を検討する「多摩の森ではじめる」プロジェクトが始動。国土緑化推進機構の補助金を活用し、平成 29 年 7 月から平成 30 年 6 月の間に、フィールドワーク及びワークショップを 4 回実施した。
- ・平成 29 年 11 月に「八王子市公共建築物等における多摩産材利用推進方針」を策定し、市民に多く利用される公共建築物等に対し、市が率先して多摩産材を利用することで、民間利用を促進させること等を目標に定めている。